

自 己 評 価 表

(令和4年度)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国家社会に寄与する、徳・知・体の調和の取れたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	<p align="center">文武両道 人間力を高め合い 夢の実現を</p> <p align="center">— 伝統を継承し、地域と共に歩む —</p> <p>1 誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。</p> <p>2 学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。</p> <p>3 一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や創造力を養う。</p> <p>4 多様性を尊重し、互いのよさを生かして協働する力を養う。</p>
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	一定時間機に向かう習慣が定着するよう、各教科で課題の出し方の工夫や個に応じた指導を行うとともに、各HR・学年で学習への意識高揚を図り、1日2時間以上の家庭学習時間を旨す。 A:2時間以上、B:1.5~2時間、C:1~1.5時間 D:0.5~1時間、E:0.5時間未満			
	教科指導力の充実	<p>教科内及び教科間の情報交換や学習評価に関する研究を継続・発展させ、ICT活用などにより主体的・対話的で深い学びとなるよう授業の満足度や学習意欲を高め、授業の改善を進める。</p> <p>校内研究授業や相互参観授業で、年間4回以上授業を参観して、教科会や学年会などの研修も踏まえて授業力向上に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回</p>			
	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ50人以上を目標に、個別指導等の徹底や資格取得への意識を高めることにより、上級資格取得の奨励に努める。基礎・基本、実務に役立つ2・3級の合格者を増やす。 A:50人以上、B:40~50人、C:30~40人 D:20~30人、E:20人未満			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、全校出席率98%以上を維持する。 A:98%以上、B:96~98%、C:94~96% D:92~94%、E:92%未満			
	生徒理解の推進	5分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日70日以上を旨す。 A:70日以上、B:55~70日、C:40~55日 D:30~40日、E:30日未満			
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間4回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回			
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化に努める。地域行事にも主体的・積極的に取り組む態度を養い、奉仕の精神を育む。			
ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行う。交通ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。				

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標			
進路指導	個に応じた進路保障	学年団と進路課が連携をとりながら、1年次から進路意識を高める指導を継続的に行い、 <u>充実した家庭学習に努めさせる。多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーション等）に対応した力を育成することで、希望進路達成率100%を目指す。</u> A:100%、B:90~100%、C:80~90% D:70~80%、E:70%未満			
	進路指導力の向上	入試改革や学部・学科変更等の情報収集を行い、校内のネットワークシステムや教科会、学年会等を通して全体で共有する。			
	キャリア教育の推進	語先後礼を徹底し、インターンシップの事前指導や取組、デジタルサイネージの活用等を通し、生徒が自ら考え、行動する力を育む。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など、職業理解の機会を増やす。			
特別活動	部活動の充実	運動部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。県総体出場100人以上を達成する。 A:100人以上、B:80~100人、C:60~80人 D:40~60人、E:40人未満			
		文化部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭等において、4つ以上の部と20人以上の参加を目指す。 A:4つ以上の部で20人以上参加 B:4つ以上の部で15人以上の参加、又は、3つの部で20人以上の参加 C:3つ又は2つの部で15人以上の参加 D:2つの部で15人未満の参加 E:D評価に届かない場合			
	生徒会活動・家庭クラブ活動 委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。 <u>活動を通して、お互いのよさを尊重し生かしかつて協働する力を養う。</u>			
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。また、 <u>生徒全体の参加意識を高め、地域に貢献しようとする態度を養う。</u> A:5回以上、B:4回、C:3回 D:1~2回、E:0回			
同和・人権・教育	人権・同和問題学習の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動に加え、多様化する人権課題に対する生徒・保護者への啓発活動を充実させるとともに、 <u>現地研修会などに積極的に参加し、生徒に主体的に人権問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。</u>			

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標			
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行う。校外活動にも積極的に参加して地域と協働した取組を通して、生徒が地域を知り、地域を誇りに思い、地域に貢献できるよう努める。そのことで、地域に信頼され、親しみやすく開かれた学校づくりに目指す。			
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	P T A ・同窓会や地域の諸団体と協力し、「総合的な探究の時間」や課題研究で、地域人材を活用した体験学習を実施する。特に、昨年度まで取り組んだ文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」内容を整理して持続可能なものにする。また、SDGsの観点を踏まえた授業や地域と協働した地域貢献活動等を積極的に実施し、特色ある学校づくりに努める。			
業務改善	適切な勤務時間	教職員の定時退勤日の設定や部活動の休日の確保などにより、教職員の勤務時間を守る。また、I C T導入で業務の効率化・平準化を図り、時間の有効活用を推進する。 毎月、1回は「はよ帰るデー」を設定し定時退庁のびかけを行い、ワーク・ライフ・バランスを目指す。			
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的実施したり、休憩場所の環境改善を行ったりすることで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。 男性休養室の整備も行い、教職員全員が適宜くつろげる場所を設けることで、より働きやすい環境作りを目指す。			

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。